

■児童の学力の状況

- 算数では、既習内容の理解の個人差が大きく、文章問題への苦手意識が強いため、文章問題の読解力、算数用語の定着や資料を読み取る力の定着に課題がある。自分の考えを表すことは少しずつできている。
- 国語では、学年相応の、目的に応じた文章を書いたり読んだりすることが苦手な児童がいる。また、筋道を立てて、話すことが苦手な児童が多い。
- 毎朝の朝読書が定着してきており、意欲的に読書をしている児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 個別に対応するためには、学力向上専門員やボランティアなど、複数の援助が必要である。
- 問題を正しく捉え、自分の考えをしっかりとつ時間を確保する。
- 授業の流れの中で、OUTPUT（表現）の時間を十分に確保するために、自分の考えを自分の言葉で表現できる機会を意図的に設定する。
- 本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間を十分に確保する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力を育むために、問題解決型・探究型の学習活動を重視し、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。
- 児童一人ひとりが自分の考えを友達に伝え、友達の意見を取り入れ、相互に意見交流をしながらよりよい考えを能動的に作り出す協働学習を推進する。
- 教師と児童の「一問一答型」の学習から、児童相互の「一問際答型」の学習に転換を図る。その有効的なツールとしてICT機器を効果的に活用しながら問題解決型・探究型の学習展開の充実を図る。
- 「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業を行い、児童に基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	振り返りの時間の充実
○若木小学習の基本ルールを各クラスに掲示し、アウトプットを意識しためあて（青で囲む）→自力解決→集団解決（ペア・トリオ等）→まとめ（赤で囲む）→ふりかえり（わかったこと・かんがえたこと・ぎもん等を書く）を徹底する。	○授業の導入場面（INPUT）では、学習でわかったことを表現（OUTPUT）する場面を意識しためあてを提示することで見通しをもたせる。思考（THINK）する場面では、自力解決できない児童に対して机間指導をしたり、教え合いをしたりすることで支援する。OUTPUTでは、めあてで提示した内容について自分の言葉で振り返られるようにする。	○低学年（顔の表情に色塗り、文）中学年以上（chromebookでスプレッドシートへの入力、文）など、児童の実態や学習活動に合わせて振り返りを行う。また、学級会の振り返りでは、友達のよいところを伝え合う時間を充実させることで自己有用感を高める。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<ul style="list-style-type: none"> ○「板橋のiカリキュラム」を円滑に実施するための教育課程を編成する。 ○学校の積極的な公開や地域行事への参加を通して保護者、地域の方との連携を図り、児童が様々な人とのかかわりの中で、学校や地域への愛着を育む。 ○「保幼小中一貫環境教育カリキュラム」をうけ、地域人材の活用や近隣の環境に関する学習の充実、環境教育テキスト「未来へ」の活用を通して「環境についての感受性と共成や思いやりの心」、「環境に対する見方・考え方」、「環境に働きかける実践力」を段階的に育成し、児童の「郷土愛」を育む。（さくら草の栽培、ゴミの学習等） ○総合的な学習の時間では、児童一人ひとりが自己課題をつかんで探究し、児童の生活と結び付いた環境、福祉、地域、文化、国際などの題材を取り入れて設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○9年間の系統的・連続的な指導計画に基づいた教育活動により、学力向上を図る。 ○教科担任制を実施することで、他クラスの児童理解を深め、様々なサポートを学年対応につなげ、校内支援体制を充実させていく。 ○保幼小のスムーズな接続を目指し、1年生と若木保育園等の近隣幼稚園・保育園との交流を実践する。 ○1年生入学当初におけるスタートカリキュラムを編成し、合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割を運用することで、児童が安心して小学校生活を過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が一人一台端末や情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し、個の学びの充実をより図れるよう指導方法を工夫することに努める。 ○家庭学習や自主学習等で一人一台端末の有効活用をするとともに、情報モラルについて児童の理解を深める。 ○考えて行動する「考動」を基本とし、共通した生活指導・学習指導により、小中の接続を円滑にする。 ○基礎・基本の定着のために、家庭学習の習慣を身に付けさせ、一人一台端末を活用し、個別に最適化された課題に取り組む。

